

書 評

色の性質と技術

応用物理学会光学懇話会編 朝倉書店/1986年/202頁/3,800円

本書は“色の性質と技術”をテーマとする講習会（応用物理学会光学懇話会主催）のテキストを単行本としてまとめたものである。下表の目次が示すように、本書は色再現技術およびそれに必要な色の基礎知識に関する合計10章から構成されており、力点は最後の3章をあてている、色再現技術に置かれている。

第1～3章では、人間の視覚系の構造と色覚メカニズム、ならびに同じ物理特性をもつ色刺激に対する心理的色知覚の多様性を説明し、色の定量化には色知覚の客観化が不可欠であること、また、これを実現する方法として、いわゆる開口色モードで色の測定が行なわれることなどが解説されている。

“色の性質と技術”の目次

章	見出し	執筆者
1	視覚系の構造	畑田 豊彦
2	色覚の心理	富家 直
3	色覚の構造	池田 光男
4	XYZ表示系	池田 光男
5	色名および記号による表色	川上 元郎
6	測色	川上 元郎
7	色順応と演色性	大田 登
8	テレビにおける色再現	坂田 晴夫
9	写真における色再現	大田 登
10	印刷とプリントにおける色再現	佐柳 和男

第4～6章では、CIE表色系（色を定量的に測定し、その結果に基づいて色を表示するための体系の一つ。国際照明委員会が推奨し、国際的に広く用いられている。）をはじめとする色識別と色表示のための種々の体系、およびCIE表色系に基づく測色の説明があり、第7章では色再現技術においてきわめて重要な要素の一つである人間の視覚系の色順応と照明光源の演色性が定量的に取扱いされている。

第8～10章では、“テレビ”、“写真”、“印刷とプリント”の、色再現において代表的な三つの分野での色再現技術が解説されている。これらの技術は色彩科学とこれらの各分野における専門技術との補完的協力によって得られた成果である。

本書の編集幹事を務められた池田光男教授（東工大）が、“これらの章を読むことによって、自分の周辺にも色を発生することを人々が欲しているものはないかを探り、その実現に挑戦してみる人が一人でも読者の中に現れるなら、それは執筆者一同、望外とするものである”と序文で述べておられるように、まだ残されている色彩科学応用の社会的ニーズの開拓が期待される。

本書は色再現に携わっている技術者にはもちろん、これからこの分野の開発研究を志そうとする技術者や学生にも十分に役立つであろう。最後に、誤植などが多少、見受けられるので、増刷の際には是非、訂正して下さることをお願いしたい。（千葉大工 佐藤雅子）